

第 8 回きたひろしま都市型観光推進協議会 議事要録

- 1 日時 平成 28 年 3 月 25 日（金） 18 時 30 分から 19 時 30 分
- 2 場所 芸術文化ホール 会議室 3
- 3 出席状況

NO	氏 名	職 業 等	出欠
1	上 原 康 雄	北広島市観光協会会長	欠
2	山 崎 悦 子	北広島商工会会員（行政書士山崎法務事務所）	出
3	千 葉 隆 一	札幌ゴルフ倶楽部 支配人	出
4	石 塚 正 敏	札幌北広島クラッセホテル支配人	欠
5	(副座長)川 口 満 久	ホクレン農業協同組合連合会統括マネジャー	出
6	中 村 哲	三井アウトレットパーク札幌北広島所長	欠
7	(座長)吉 岡 宏 高	札幌国際大学観光学部国際観光学科教授	出
8	三 浦 麻 衣	市民（会社員）	出
9	善 甫 啓 太	市民（会社員）	出
10	吉 田 智 樹	北広島市経済部商業労働課課長	出

きたひろしま都市型観光推進協議会事務局

所 属	役 職	氏 名
経済部商業労働課	主 査	山 田 基
	主 任	青 木 潤

傍聴者

人 数
3 人

4 議事録

1. 開会

事務局) これからきたひろしま都市型観光推進協議会を開催させていただきます。

本日はお集まりいただきありがとうございます。

本日第8回は、皆さまからいただきましたご意見の確認を行い、この2年間のまとめを議題として取り上げたいと考えております。

それでは座長よろしくお願い致します。

座長) 皆さんこんにちは。

いよいよ最終回となりました。皆さんにご意見いただきましたことをまとめた案がお手元の資料にあります。加えて、今後どのように展開していくかという話でもございます。

それでは、事務局から説明をお願いいたします。

2. 議事

事務局) 資料説明

今回、資料枚数はカラー横の3枚でございます。

先ず一枚目。

北広島市の都市型観光の方向性についての案ですが、これにつきましては、前回から変わっておりません。

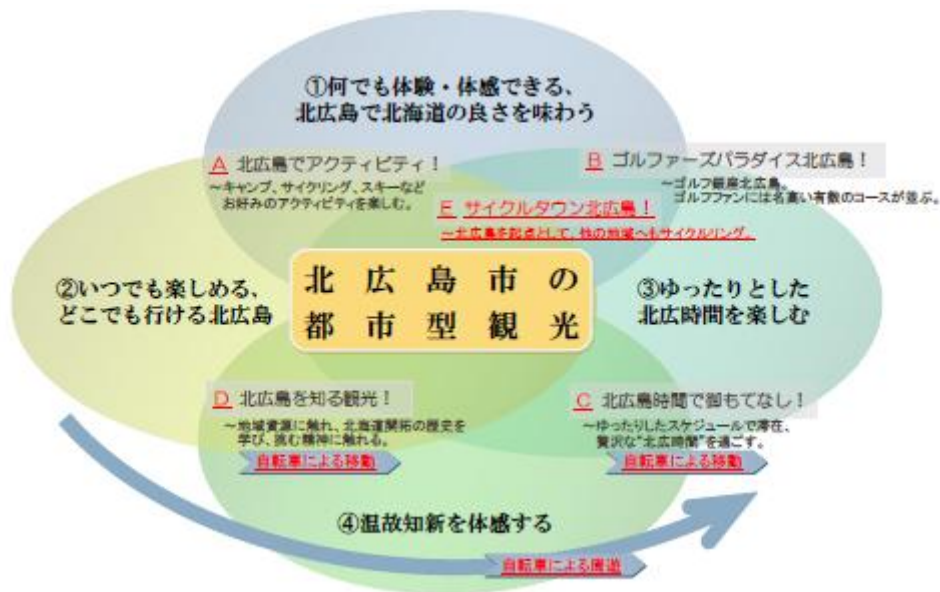
この方向性については、皆さまにもご確認いただいているところでございます。

- ① 「何でも体験・体感できる、北広島で北海道の良さを味わう」
- ② 「いつでも楽しめる、どこでも行ける北広島」
- ③ 「ゆったりとした北広時間を楽しむ」
- ④ 「温故知新を体感する」

続けて二枚目。こちらは前回の資料について、追加したところを朱書き+アンダーラインでお示ししております。

先ほどの4つの方向性に変更はありませんが、そこに、取り組み5つほどAからEとして記載しております。

- A 「北広島でアクティビティ！」
- B 「ゴルファーズパラダイス北広島！」
- C 「北広島時間で御もてなし！」
- D 「北広島を知る観光！」
- E 「サイクルタウン北広島！」



自転車についてですが、自転車の移動手段としての面から、資料下に矢印でお示ししていると同時に、自転車自体を楽しむという面から、資料中央上の事業がクロスする部分にEとして配置しております。特にCとDについては、自転車による移動というものも想定し、周遊のイメージで記載しております。

2枚目について、一番大きな変更は、サイクルタウンを追加したということところです。

3枚目については、AからEの取組と、水色の枠でそれぞれの副題などの構想を並べております。

またこれの文言に修正を加えており、朱書きで記しております。

ただしDについては、北広島市を知る観光ということで、前々回からご意見をいただいております、工場見学等を盛り込んでおります。タイトルは、『きっと新たな発見がある。「知って」、「学んで」工場見学を楽しむ！』とさせていただきます。加えて、北広島は交通の要衝ということで、駅通所があるということもございますが、室蘭街道もしくは、千歳川、鉄道といった要所で、北広島ひいては北海道の開拓史等を物語れるといったところで、これを起点に何か観光的な素材にブラッシュアップして、大げさかもしれませんが、北海道開拓の経過を北広島で感じるのではないかと考えここに記述しております。この2点については、前回から大きく変わって追加されたところがございます。

それと前回もありました「実際誰がどのように実施するか」という議論について、AからEの横のオレンジの部分に実施区分というものを加えさせていただきました。資料の一番下にその凡例がございます。

都市型観光の取り組み	A 北広島でアクティビティ！	協定する実施区分 (市民等：○ 観光施設：○ 企業：△ 行政等：△)
	<ul style="list-style-type: none"> ●キャンプ、農作業、ゴルフ、サイクリングなど、家族全員が一人ひとりのお好みのアクティビティを楽しめる。 ●冬はスキーのほか、スノーシュー、スノーモービル、パラセールフライトもできる。 ●抜群のアクセス性でお隣のまちや観光地にもすぐに行ける。北広島滞在を拠点として、北海道観光が楽しめる。ハブハブ観光！ ●北広島発！カヌーで石狩平野探検！ ゆっくり下りながら川から石狩平野を眺め。 	
	B ゴルファーズパラダイス北広島！	協定する実施区分 (市民等：○ 観光施設：○ 企業：△ 行政等：△)
	<ul style="list-style-type: none"> ●ゴルフの後は、温泉やグルメを楽しみ、近くでショッピングも可能。 ●市内のゴルフ場を巡りスタンプラリー、クリアするとゴルフのプレイチケットやショッピングチケットをプレゼント。 ●婚活ゴルフコンペ、冬はスノーシューを書いてゴルフなど。 	
	C 北広時間で舞もてなし！	協定する実施区分 (市民等：○ 観光施設：○ 企業：△ 行政等：△)
<ul style="list-style-type: none"> ●北広島でゆったりしたスケジュールで滞在。賢明な“北広時間”を過ごし“This is Hokkaido”を堪能。 ●時間制約が少ない一人数には、豪華旅行の要素が一緒。 ●北広島の星空は抜群。星空を鑑賞しながら美味しいコーヒーを楽しむ夜間観光。 		
D 北広島を知る観光！	協定する実施区分 (市民等：○ 観光施設：△ 企業：△ 行政等：○)	
<ul style="list-style-type: none"> ●市民大学のOBが観光客をアゲンドし、太古の昔から現在まで、北広島の歴史や文化を分かりやすく伝える。フォトスポットをご案内。 ●ニッチな地域資源、こだわりを伝え、北広島ファンを多くつくりたい！ ●駅周辺の高層性や地域特性を活かした楽しみ方を提案。空襲歴史・千歳川・鉄道の歴史に触れ北海道歴史を知る。 ●もっと新たな発見がある。「知って」、「学んで」、「発見」を楽しみたい！ 		
E サイクルタウン北広島！	協定する実施区分 (市民等：△ 観光施設：△ 企業：△ 行政等：○)	
<ul style="list-style-type: none"> ●好アクセスにも関わらず、北海道の自然をしっかりと満喫できる自転車道。 ●北広島を拠点として、札幌、千歳方面のほか、空知方面にもサイクリングが楽しめる。サイクリスト・ゲートウェイ・北広島。 ●エルフィンロードには、自転車道、レンタサイクルステーションなどの施設が充実。 ●サイクリングによる歴史施設巡りや北広島のグルメを楽しんでもらうなど、ツーリングと観光資源を併せた多彩なコース。 ●分散型市街地と自然環境を活かしたコース設定により、どろからエキスポまで、幅広いコースに対応。 		
<small>※協定する実施区分については、市民等(市民等団体の会)、観光施設(ゴルフ場やスキー場の観光施設)、企業(ショッピング施設を含めた企業)、行政等(北広島市、観光協会)、公民館などになるもの、△:連携するもの。</small>		

行政による働きかけとサポートにより事業を創造

このようなカテゴリーに分け、丸印が主体となる場所、三角が連携するもの、と整理しております。例えば、北広島市のアクティビティですと、観光施設の方々为主体になって、企業や行政等が連携すると、ゴルファーズパラダイス北広島ですと、ゴルフ場主体となりますが、ほかに行政であったり企業も連携していきたいと、北広島市を知る観光については、市民の方のお力も必要だということで市民等を○にしてあります。当然行政も○ということで考えています。サイクルタウンについては、行政側を○しております。

先生からもご意見をいただいているところですが、特にCとDはセットで展開する必要がありますので、行政側の方で働きかけたり、サポートさせていただく中で、C-D間もしくは別な取り組みとの連携については行政が調整していかなければならないと考えております。

関連して、資料の右側の方に、「行政による働きかけとサポートにより事業を創造」として、こういった行政側のアプローチをもって、各取り組みが実現できるようなイメージを持っております。

以上、前回からの追加・修正点ということでご説明させていただきました。ご意見等宜しくお願い致します。

座長) はい、有難うございました。前回の議論を踏まえて追加・修正いただいたということでございましたが、ご意見はいかがでしょうか。

○委員会からの意見

- 今後の情報発信について、例えばゴールデンウィークから、ホームページなどで「ここをクリックしたら北広島の魅力にリンクする」ような形で、コンテンツとしての見せ方はいかがでしょうか。
- 現在、観光サイトが運営されておりますけれども、確かにこのサイトがうまい具合に運営されていないという面もありますが、そういったところも改善しながら、情報発信について努めていければと考えております。

座長) 先日の道新記事にもありましたが、自転車のイベントを年4回にするということで宣言されておりまして、それがこの協議会のアウトプットということで、動き出しているということがわかりますし、成果は見えているのではないと 생각합니다。

この協議会で、今までばらばらにやっていたものが、こうやって一堂に会して、まずはお互いの立ち位置を知ろうと。それで観光というと、百人いたら百通りの観光があって、ただ資源も限られていますから、北広島市では1のレベルのものを百やってもパワーは発揮しないわけです。

その中で、ある程度束ねて、いくつかみんなの意識を集中できるような柱を立てる、ということで今回4つの視点と5つの方向性を打ち出した。少なくとも今まではなかったと思います。そしていよいよそれをもとに実践しながら、誰が何をやってどれくらいのお金が必要か等を整理していくのです。

従来の行政のやり方だと、「なんか最近ちやりんこ流行っているぞ」となったら、自転車ばかり何の脈絡もなく流行っているものだからと食べてしまうと。そうではなくて、息長く育てていって、北広島市らしさというもののためやっという柱を立てる、これは多分、時代とともに変わっていくと思います。

ですからまずは情報公開としましては、議事録は常に公開しているのですけれども、「これからはこれをもとに展開していきますよ」というのは、しっかり打ち出していくべきだと考えます。その上で、具体的に例えばDの「北広島を知る観光」というのは、実践を重ねながら、素材・魅力をワンストップで表現していけるものが必要になってくるのではないかと考えています。素材は結構出ているので、実践を重ねて打ち出していけるものにするのはもちろんですが、とりあえず、どんなネタが出ているというのは、もう少し整理して市民の皆様にお知らせしていくのも一つ手だと、今のお話を聞いて思いました。

○委員会の意見

- 行政としても最終的に、流行りに流されることなく、基本的な「うちのまちの観光はこうだ」という迷ったときに戻れる原点、そのようなものが方向性になるのではないかと考えています。資料3ページ目に書かれていることは、皆さま方にいただいたご意見に対し、まだ足りないところもあるので、これは状況によってまたブラッシュアップされながら、いいものになっていくと思います。

座長) 関連して私が気になったのは、観光協会のところですね。

事務局) 行政等のところですね。

座長) 観光協会ももう少し、なんとかならないかと話もされてきておりますし。

○委員会の意見

- 行政と会長さんの間で打ち合わせはなされているのでしょうか。
- 私も観光協会の事務局長という立場もありますので、情報については会長の方にお伝えしてお

ります。都市型観光と今までの既存の観光協会の事業の方向性は、観光協会を今後どうする
という上で、一石を投じることになるのは間違いないと思っております。ですから、課題として
今後観光協会をどうするかは、大きな行政課題ではないかと思っておりますが、これは時間を
かけながら、このまちの観光のあるべき姿に重ね、観光協会のあるべき姿を整理していかなけ
ればならないと考えております。

座長) 前回、私の方から指摘しているようにAとBは事業者がやろうとなるとずっと動き出すだろうと
思います。CとDは、市民の皆さんが大きなパワーになってくるのだろうと考えております。そして、
Eは行政が。自転車はCとDにも活用することができます。

まずはこのメンバーで少しずつお互い話し合うだけでも動きが出てくるだろうと考えています。その
中でも、行政の立ち位置と観光協会のあり方というのは、おそらくその次の大きな問題であるだろうと
考えています。

事務局) 観光協会については、位置づけにおいて、この資料を作成する際もやはり今の段階では行政側
に入れざるを得ないだろうというのが事務局の判断でございました。今後、観光という視点での切り口、
展開の期待も込めてここに入れていた状態でございます。

座長) 一言でいえば、野球部で言うところのマネージャーのような役割だと思います。マネージャーは
自分で野球をプレイするわけではない。プレイするのは当然選手です。だけれども、存分にプレイでき
るように環境を整えたり、励ましたり、助けたり、時には意見をぶつかけたりと、触媒として動きを促進
できるような役割が求められます。それは官の立場で言えば市だし、もう少し柔軟な発想でやるのが観
光協会であると思います。そしてそれは今後の組織のあり方の検討の中で、そこに立つ人が行政だけで
はなくなるでしょう。

現在、観光庁でDMOというものに関する施策が展開しております。「目的地」にしたい地域をマネ
ジメントし、人の流れをうまく整えるための組織、というのを国が審査して認めるのですが、認められ
ればそこに優先的に予算をつけていきましょう、という流れです。行政直営のような形を、マネジメン
トする側の市民の方々をカバーする形にしていく、というのが次の課題かもしれないと感じております。

あと違うところでもう1点気になったのですが、Cの区分は「市民等」も〇ではないかと思えます。

観光施設については、その場所を使わせていただく、というような意味合いですよね。

事務局) 今見返してみると、その施設を誰が運営しているかという視点から考えると、「市民等」は〇
ですね。

座長) 本当に北広島は色々な切り口があると思うので、自分が「ここは面白い！」って思った人がそれ
を追求していくということが、まちのパワーになるのかなと思っております。

全体としてよろしいでしょうか。

全体) はい。

座長) それでは、今後の展開について事務局からお願い致します。

事務局) まず初めに、先生につきましては、2年間ありがとうございました。

ほかのメンバーの皆様につきましては、今後も引き続き、都市型観光および従来型の観光において、協議会の中で様々なご意見をいただき、併せて、こういった関係団体の皆様が集う場所も多くないと思われまますので、都度連携し、事務局もアンテナとしてキャッチしていきたいと考えております。

28年度につきましても、皆様には別途ご連絡をいたしますの、ご承認いただければ引き続き委員をお願いできればと考えております。

座長) それでは、今後の展開について何かご意見あればお願い致します。

○委員会の意見

- 私は北広島市民なのですが、「北広島にはなにもない」と言われることもあったものですから、私の職場や幼稚園、小学校等でお母さんたちとお話する際に、「なぜ北広島市に引っ越してきたのか」ということを聞いております。すると、子育てをするのにどこの街がいいか調べた時に、北広島に決めたという返答がありました。北広島市に住んでいたらそれが当たり前だと思っていた環境が、実は当たり前ではなかった。便利だし自然もある。お仕事を終えた人だけでなく、これから子どもたちを育てようとする人も、魅力的だと思って来てくださる。私はこれをとても誇りに思っておりますが、でもこれに気づいていない市民の方もいらっしゃるのかもしれないと感じたのです。こういうことをもう一回再確認できるような、「こんなに子育てにいいんだよ」という切口をもうちょっとPRできたらなと考えております。

座長) ほかに何かありませんか。なければ最後に一言ずつお願い致します。

○委員会の意見

- この2年間で方向性ができ、これから第2ステージとして具体的に動いていくのだと思いますが、協議会というものは、それ自身が何かするわけではない。では具体的に動いていく時に、どのような役割を誰が担っていくのかということが課題だと考えています。方向性を決めるのは協議会であり、その方向から逸れた時に、それを指摘することが協議会の役割でしょうか。私自身は今後も協議会に参加していきたいと思っておりますが、ただ、なんとなく集まって話し合っただけにならずに議事録だけ発表されてという場だと残念ですので、そこは意識していきたいと考えています。
- 商業施設につきましても観光関係につきましても、なかなかつながり自体が多くないものですから、今後はそのあたりを連携しながら、協力しながら、参加できるものは参加していきたいと考えております。「横のつながり」でいろいろな取組ができると考えています。
- この協議会に招待いただいたときに、今もそうですが、ぜひ一緒に協力していきたいなと思っております。ただ、こちらもキャパ等の問題もありますので、どういう方向でやるのかということ

は事前に踏まえながら進めていければと思います。

ほかの北広島の色々な会議等に参加した時に、こんなところがあるのかと感ずることがあります。クラークさんの関係ですとか工業団地ですとか、存在は知っていても具体的にどういうものは、北広島に住んで1、2年という人も、なかなか知る機会がないかもしれません。先ほどのお話にもありましたが「北広島を選んで来ていただいた人」がいる、ということは、北広島の「何か」に「来てもいいかな」と思ったということですよ。北広島の環境のすばらしさは様々なところで目にしますが、「移ってきた市民の声」というものを目にする機会が増えれば、もっと北広島を知ってくれて、興味をもってくれる人が増えるのではないかと考えております。

私どももお客様に対してアンケート等をしてしておりますが、やはり「お客様に育てていただいている」ところでございますので、そういったお客様たちの思いがもっと充実するように、市としても考えていかなければならないと思います。

- 私は関西生まれ関西育ちで、移住といっても転勤でこちらに入ってきたのがきっかけでございますけれども、私のこれまでの人生の中で、北広島市にいる時間が一番長くなりました。

朝、通勤する時にキツツキの音が聞こえるような環境というのは、絶対都会ではありえないですね。こんな素晴らしい環境に住んでいるのですから、情報発信の仕方についてもっと考えていく必要があると思います。

それと、私もずっと、北広島をどう思うか考えてきました。なかなかこれといって目玉がないという認識から、この協議会に参加させていただき、小さな目玉がたくさんあるという認識が変わってきました。それをどう発信していくのか、というところでいきますと、都会の人は北海道に非日常を楽しみに来ているわけです。私がここにおいて感じたことは、日常が非日常なんですね。夕方「疲れたなあ温泉いこう」、こういうことは東京ではできません。まさに、日々の生活が非日常の繰り返しです。これをどういう風に表現すれば「食い付いてくるか」というところを考えることが重要な気がします。

それからこの協議会も、移住促進など他の活動ともうまく連携してすれば、もっと北広島のいいところを出していけるのではないかと考えております。

来年度以降、もし参加させていただけるのであれば、加わっていきたいと思っております。

- 私は、この会議が始まる前は事務局の立場でというお話もあったのですが、ぜひ色々な方たちがお集まりになるこの会議で市民の皆さまと一緒に、行政の立場と、それに行政を超えたところで、様々なお話をしながら、何かをつくれたらなと思っております。

最初に皆さま方にもお渡ししたと思いますが、観光基本計画の策定が26年の4月にありまして、この計画の中、都市型観光推進協議会というものを立ち上げ、さらなる市民の皆さまとの連携の中から、様々な事業展開の方向性を見出していこうというのが発端になっております。

私はこの経済部に来まして、最初に担当したのがシティセールスでした。自分でこのシティセールスとは何なのかと考え、最終的に行き着いたのは「まちを知ること」という考えでした。行政がどれだけ旗を振って、行政がいろいろな声を上げて発信しても、それはただ単に行政内にいる人間が発信するだけであります。ではなくて、6万人の人口がいて、この6万人みんながセールスマンになれば、もっと広く北広島をセールスできると、発信できると。ということは、市民の方にもまちをよく知ってもらおうということが大事になってくるのではないかと考えました。行政だけ、市民の皆さまだけ、ではなく、行政が持っているものを市民の皆さまにもご理解してい

ただ、そして市民の皆さまが持っている財産も行政が情報共有しながら、6万人でまちをセールスしていこうと、これがシティセールの根幹なんだなと考えました。

2年間、この協議会に参加させていただいて、本当に知らないことがいっぱいあるなど、改めて感じました。北広島は観光地ではありませんが、観光地ではないまちの観光をどうするのかというところで、色々な小さな原石をみんなでブラッシュアップしながら、その資源を生かして観光に結び付けていくということが大事なのだらうと思っております。そういった意味では2か年お話を聞かせていただいて、原石はまだまだ転がっていると、改めて感じた2年間でもありました。

座長)では最後に私の方から一言申し上げます。

このまちにはすでに観光協会がありますが、なぜこのような会議をやるのかという問題です。

それは、他の会議等で顔を合わせますけれども、お互い腹の底からこれからの北広島の観光についての話は全くしたことがない。市民の人もいろいろ活動されておりますが、「観光なんて業者がやる話でしょ」という方もいて、全く自分が縁遠いところにいる人も少なくないと思います。せっかくいいネタがあったり、大きな計画があったり、専門の部署が市役所にある中で、そこが全然結びついてないところを、いきなり「さあやりましょう」と言っても動かないので、一種の暖機運転・ウォーミングアップという意味合いでこの会議があったのだと考えております。

アウトプットはこの3枚ですが、これまでにやった「熱い話」を、とりあえず皆さんが「ここは合意できるよね」というところをこのような形にまとめた。だから捨てたものもたくさんありますよね。これは、随時やっていきながら拾ったり復活すると思えます。

そういう意味では、お互いにどういう立ち位置でどういうことを考えているか、企業の方は結果を出さなくてははいけませんし、市民の方は何かやり続けることが大事ですし、行政はやる前が大事ですし、価値観の違う方々が少なくとも観光ということで、話ができて、お互いに頼みやすい雰囲気も出てきたし、そういう意味ではいよいよ実行していく段階になってきたのかなと思います。その中で、先ほど言ったように、ちょっと落ちてしまったものもたくさんありますので、ぜひ、そういったものももう一度参照していただいていくとさらにバリエーションが広がると思えます。

そして先ほどもお話ありました移住者の関係ですけれども、その移住者にきて初めて自分のまちの良さを知ったと。まさに観光の役割は一つそこです。実は外からの目をもらうと、自分たちでも思ってもみなかったことが、実は自分たちの宝であったり、当たり前なことが宝物であったり、というのが一つ観光の力だと私は考えますね。多様性のある世界ですから、やはり観光事業者がやればいいという話ではなく、市民の方ひとりひとりが、自分が面白いと思ったり、やり続けているネタをひとつずつ小さくてもいいからたくさん作ってもらう、という動きを大きくおこしてもらう。これが最終的にまちのパワーにつながっていくと考えます。

ただ、そうはいつでも、観光は人が来てくれないと観光になりません。1でもあれば掛け算は成立しますが、0では掛け算は成立しませんので。そういった点で北広島は恵まれており、すでに三井アウトレットがあったり、クラッセがあったり、くるるがあったり、それなりに人が来ているところがあります。

こういうところは、完全にビジネスはビジネスでいいのでしっかり稼いでいただいて、そのなかで市民の方たちが自分のネタを追求して、ここに投資していってもらおうと。それが実は企業側のバリエーションの広がりにもつながってくる。そういう良い循環をぜひ、生み出してもらいたいなど。そのために

は、やたら鉄砲を撃っても多分当たらないわけで、少なくともお互いどの道を進もうかということを決めていく必要があるのだと考えます。今回、わずか3枚のアウトプットですが、そのいくつかの光の道は皆さんで合意できたものです。そのため、少なくともこの中にいる皆さん方はスタートを切ってくれるんだろうと思っております。

従来のやり方、つまり全部やることを決めてそれでスタートしましょう、ということができた幸せな時代はもう終わっております、「やってみないとわからない」「やってみればさらに思ってもみなかった効果が得られる」時代ですので、実践しながら考え抜き、その中で足りないところを整え、さらに馬力をかけなければならぬところを加速し、失敗したなど思ったらそこでやめ、それを常に繰り返していくというやり方になると考えます。是非、今回シナリオの一端ができましたので、このシナリオを深めたり、バリエーションをつけたりしてほしい、スタートしてほしいと思います。

まさにこれからの観光のポイントは「良い日常」ではないかと思えます。北海道はずっと「非日常」ばかり追いかけてきました。しかし、刺激を与え続ける観光というのはいつか限界がきます。だから普段通りの生活に立脚した「自分としてもじっくりくるんだけど、ちょっと自分のいつもいるところとは違う」という、例えば先ほどの森のお話はまさにそれで、「どこの街にも森はあるのだけれども、住んでいるところの森とはまたちょっと違う」、この感覚が非常に大事なのかなと考えています。

今後も、私も是非橋渡ししていければと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

事務局) ありがとうございます。資料についてはもう少し整理したと考えております。

28年度も引き続き協議会は存続しますので、また皆さんにはお声かけさせていただきながら、進めてまいりたいと考えております。どうぞ宜しくお願いを申し上げます。

本日はありがとうございます。27年度についてはこれで終わりたいと思います。ありがとうございました。

3. 閉会